
音風の弦き ?

音風 奏（雅董杏みつ）

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

音風の弦き ?

【Zマーク】

Z6293V

【作者名】

音風 奏（雅董杏みつ）

【あらすじ】

音風が何かを弦きたくなつたときの弦きです。
ンマー、気軽によんでもくださいな

アレは、俺がまだ小学校に上がる前だつたな。保育園の級友たちの間で、一時期とある一冊の本が流行っていたことがあつた。

タイトルを「さるの一日」といつ、比較的子供向けの絵本であるそれは、サルの絵が可愛くて特徴的だつたのが流行の原因であり、当時あまり「本」というものに興味を示さなかつた俺ではあつたが、ある時、一番仲良しだつた友達に「一度でいいから読んでみて」といわれ、借りたその絵本を自宅の居間で読んだ。そのとき、訝しげな目で親が見ていたのを覚えている。

内容はほとんど子供だましで、「朝は歯を磨く」だの「風呂に入つてから寝る」だの、実際にはほんの嘘の塊といつても良いようなことばかりだつた。

その中でも、俺の目に止まつたものがある。それは「氣繕い」というサルの習性についてだつた。

絵本では「サルの体についたゴミをとること」とされていて、その隣には縦一列に並んだ三匹のサルが同じ方向を向いている挿絵が描かれていた。

サルたちは整列するような配列で、一番前のサルの背中を真ん中のサルが揃んでいる。真ん中のサルの背中を、その後ろのサルが揃んでいる。そんな挿絵。子どもの頃の俺には、ただ背中を揃んでいるようにしか見えなかつたが、今思えばアレは立派な「毛繕い」の絵だつたかもしれない。……って、俺が語りたいのはそこじやなくて。

あの絵をみて当時の俺は、『この真ん中のサル、うらやましいな』と思った。文章の中に「サルたちはこのあと、みんな後ろを向いて、毛繕いをしてくれたサルに毛繕いをします」とかいてあり（独断で一部を分かりやすく修正）、それはつまり、真ん中のサルは常に毛繕いをよされている状態だということだと考えたが故だと覚えてい

る。

そして小学校に上がつてまだ間も無かつたころ、俺は気が付いた。きっかけは担任の「いつも前から渡すと、前の人人が大変なので、たまには後ろの人から渡しましょうね」と言い、以後時折、列の後ろからプリントを配るようになつたことだ。

列の真ん中にいた俺は、前から渡される時も後ろから渡される時も必然的に「受け取る」「渡す」の一いつの行動を強いられる。他人から渡される時は楽で嬉しいが、いざ自分が渡すとなると、若干の倦怠感を覚えてしまう。

そうして気付いたのだ。俺が真にうらやましかつたのはプリントを渡されることであり、それはつまり、楽であるということなのだ。

しかし、楽であるといふことは、反対にいえば「いかに仕事量が少ないか」であり、そうしてくると真に楽なのは、常に「受け取る」「渡す」のどちらかしか行う必要のない、両端の奴なのだと。つまり、サルたちの毛繕いのなかで最も楽なのは両端のサルであり、真ん中のサルは他一匹分の仕事量なのだ。

こんなこと、小学校に上がる前から分かつておくべきだったと、当時の俺は過去の俺を蔑んだものだ。

まあ、今となつては自分の成長を知るいい思い出だ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n6293v/>

音風の咳き　?

2011年11月17日10時06分発行